新善光寺 寺報 北緣
2021年1月 Vol. 45

ほくえん

三輪高英

年頭所感

お檀家の皆さまには、日頃より当寺の護持にお力添えを賜り、心から感謝申し上げます。令和３年の年頭にあたり、如来さまの慈光をより実感できますこと、祈念いたします。

さて、昨年の１月下旬にとある研修会があり、その講題が「歴史を語るということ」というものでした。その講師の方が、「この度のパンデミックは…」とおっしゃっていました。まだメディア等でも“パンデミック”という言葉を聞くことが少ない時期でした。歴史を学ぶことにより、このような先見の明が養われることに今更ながら感銘を受けました。長い歴史の中では、幾多の疫病を経て今私たちはこの世界に生きています。現在誰しもが、生きづらさを感じています。その“生きづらさ”を無駄にするのもしないのも私の生き方次第であるように思います。苦しみや悲しみを通して、本当の幸せを感じられるような一年にしたいものです。

住職　太田　眞琴

前列左より　松尾一志（85歳）　太田真海（36歳）（副住職）　太田眞琴（72歳）（住職）
太田光顯（39歳）（清璋寺住職）　宗川信章（56歳）

後列左より　堀内和紀（48歳）　佐古康祥（34歳）　立花 俊 輔（40歳）　駒木根琴生（79歳）

＜今後の定例法要・行事について＞

令和３年に入りましたが、まだまだ新型コロナウイルス感染症の見通しが立たない状態が続いております。新善光寺の法要・行事も昨年と同様に形態を変えておこなう部分も出てくるかと思います。詳しくは後日皆様へハガキ等でお知らせいたしますので、ご確認ください。

また、本年も YouTube での配信（各種法要・毎週日曜の朝のお勤め）などオンラインを活用していきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

昨年の彼岸法要の様子

＜仏教講座「写経」再開しています！＞

昨年８月より再開している仏教講座は、今年も引き続き継続して開催していく予定です。座席の間隔を広げたり、換気をこまめにおこなってみたりと対策をとりながら、心穏やかに写経をしていただけるように心がけております。

また、ご自宅でも写経ができるようにホームページからオリジナル写経用紙をダウンロードできるようにもしております。郵送希望の方にはお送りしますので、ご連絡いただけますようお願い申し上げます。（アンケートハガキにその旨ご記入いただいてもかまいません）

第 53 回仏教講座「写経」

令和３年２月 27 日（土）　14 時開始

事前予約・道具は不要です。
参加費は 500 円でタチバナ僧侶厳選スイーツ付きです。
お子様向けの用紙も用意しております。

こういう時にこそ　お寺でご供養を

新型コロナウイルス感染拡大により、葬儀や法事などご供養の形も様変わりしています。そういう時にこそ広い空間を持つ寺をご活用していただければと思い、実例を交えながら紹介したいと思います。

〈葬儀〉

あるお檀家様は、お通夜は慣れ親しんだご自宅で、そして告別式は新善光寺でとりおこないました。

寺から火葬場へのご出棺の時には鐘を鳴らしてお見送りするのですが、「鐘の音が印象的でありがたかったです」とご遺族の方にはおっしゃっていただきました。

広い会場になりますので、座席の間隔を開けて密を避けてお参りすることができるかと思います。

また、昨年末に浴室も新しくしてお泊まりの方もご利用できるようにいたしました。

〈法事〉

1周忌や3回忌などのご法事も、なかなか遠方にお住まいの方をお呼びできなくなり、少人数でおこなうということが増えているかと思います。人数に合わせた部屋もありますので、こちらもお葬儀の時と同様にソーシャルディスタンスを保ちながらのお参りができます。

人数もお一人からでも大丈夫で特に使用料などはいただいておりませんので、お気軽にお使いいただければと思います。

また、供花・供物・おりく膳のセットもこちらで用意できますので、ご持参いただくものを極力減らすこともできます。

さらにネット環境が整っていますので、Zoom などオンラインシステムを活用して、ご自宅と寺をつなげることも可能かと思います。

イスの間隔は調整可能です

お飾りの一例です

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話㉖

〈新年に当たって ～常にお念仏の一年に～〉

駒木根（こまきね）　琴生（きんしょう）

私たちの日常の多くのものを奪ったコロナ禍の中で新年が明けた。自粛を促されている老いの身には中々厳しい日々が続く。例えば、人と人との出逢いが極々少なくなり淋しい。入院中の友の見舞いにも行けない。年に数回集まっていた会のランチも無い。又、日曜日毎の孫たちとの夕食も中止のままで、この間の誕生日もクリスマスも出来なかった。上の孫の今月の成人式も中止になった。彼とは誕生から思い出が一杯ある。我が家のあちこちの壁に「おとまりひょう」が貼ってある。食事後のトランプは年齢を越えて競い合う。夏の草むしり、秋の栗拾い、冬の除雪、春の氷割り等、よく手伝ってくれた。十月、彼の免許で遠出して感慨無量だった。祖父と同じ建築の道を選んだ彼に、何事にも全力を尽くすように“ばあば”は切望する。

孫の成長に照らすと、私達の加齢は当たり前だ。覚えていた事や人の名前を思い出せなかったり、仕舞い場所を忘れることがここ数年多くなり、認知症の始まりかと思うようになった。冷凍庫の中に携帯電話など正に、ズッコケ街道まっしぐらである。

私は長男の死の仏縁で出家し、更に御本山の布教師を拝命した。この間、太田住職の弟子として、知恩院や増上寺、そして全国各地の寺院で光栄な場を重ねさせて頂いた。今はほとんど無く、自身の現況を認めつつも不安は募る。

人間の脳は千億以上の神経細胞で成り立っていながら、その成熟は青年期で終わるという。又、アインシュタインの「人間の脳はわずか十％しか活用していない」という説に驚いた。よって私の脳は残り少ないという事実を認めざるを得ない。ヤレ！ヤレ！

対して人間よりはるかに少なく小さな脳の鮭であるが、川で産まれ、稚魚になると海へ出る。ベーリング海峡や多くの海を回遊して、約四年後に産まれた川に戻ってきて、産卵の大役を果たして生涯を終える。「母川海帰習性（ぼせんかいきしゅうせい）」を繰り返し、命を繋ぐ鮭のすごさに脱帽を感ずる。四年の長い間、産まれた川を忘れない実態はいまだ結論は出ず、研究中であるようだ。

一月はいつの間に、二月は逃げると言われているが、北国の厳寒・豪雪との戦いは大変だ。陰暦の睦月の語義の通り、仲睦まじく協力が生活の知恵である。我が家でも、お隣の少年たちの除雪やご近所に助けられていて感謝である。

ワクチン接種が報じられるようになり、コロナ収束の兆しが見えだしたようにかんじる。法然上人の御教え「常に念仏すべし」に邁進したい。

年賀状用に夫が描いた知恩院・御影堂

初空（はつぞら）や　一片（ひとひら）の雪（ゆき）　輝（かがや）きを

シリーズ 仏事のおはなし

年中行事のはなし ❺

令和になって早１年８カ月。そして昨年、令和２年は記憶に残る年になりました。新型コロナが全世界で猛威を振るい、多くの人が待ち望んでいた東京オリンピックもコロナの影響で延期となりました。多くの人がウイルスの犠牲となってしまった年。我々僧侶は医療従事者のように直接何かのお役に立てることは少ないのですが、一日も早くコロナ禍が終息することを御仏に祈ってやみません。

さて、今回は「7月」の行事についてと新年号ということで、新年の経文についてお話していきましょう。

◆記主忌

浄土宗の三祖の良忠上人（1199-1287）の忌日に勤める法要が「記主忌」です。我が宗では法然上人が元祖、43号で紹介した聖光房弁長上人を二祖としていますが、この良忠上人はその聖光上人より教えをいただき浄土宗教義を修め、現在の浄土宗学の基礎となる書物を著し、各地で布教活動を行ったことから三祖とされています。別名、「然阿弥陀仏」ともいい（「然阿」と略し）、多くの経典や論書、著作を執筆されたことから、その功績を讃えて「記主禅師」の尊称でよばれています。

さて、三祖様にゆかりの深いお寺と言えば、神奈川県鎌倉にある大本山　光明寺です。光明寺の開山は、鎌倉時代の寛元元年で西暦1243年といわれています。そして寺を開かれたのが良忠上人です。

光明寺では良忠上人の御命日、七月六日に「浄土宗第三祖良忠上人開山忌」として法要を行っています。

◆【お勤めのはなし　特別編】

行事のおはなしの途中ですが、本号は新年号ということもあり、特別編として新年だからお称えする偈文（お経の文言）を紹介したいと思います。

・祝聖文

「祝聖文」という偈文は、「世の中が平和で、人民は安穏であるようにと願い唱える偈文。」（新纂　浄土宗大辞典より）とういう偈文です。ご家庭でお勤めする場合は、「四誓偈」などの誦経の後にお唱えし、お唱えした後、お念仏を十遍お唱えください。

図１、書き下しを図２に示します。

（図 1）祝聖文

てん　げ　わ　じゅん　にち　がっ　しょう　みょう　ふう　う　い　じ
●　●
天　下　和　順　日　月　清　明　風　雨　以　時

さい　れい　ふ　き　こく　ぶ　みん　なん　ひょう　が　む　ゆう
災　厲　不　起　国　豊　民　安　兵　戈　無　用

しゅう　とく　こう　にん　む　しゅ　らい　じょう
崇　徳　興　仁　務　修　禮　讓
●　●　●

●：鳴らしものの打つ場所を指します。

（図 2）祝聖文書下し

てんげ　わじゅん　にちがつしょうみょう　ふう　う　とき
天下和順し日月清明なり、風雨時を以てし

さい　れい　おこ　たみ　やす　ひょう　が
災厲起らず。国豊かに民安くして兵戈用うること無し、

あが　にん　らい　じょう
徳を崇め仁を興して務めて禮讓を修す。

この偈文は、主に慶祝（けいしゅく）法要（お祝いの法要）で用いられるもので、お正月の法要「修正会（しゅしょうえ）」でもお唱えします。意味としては、「世界が平和で国が豊かになり、人々の生活が安らかであるよう念じ、国家安穏・五穀豊穣・道徳礼儀の興隆をお祈りする」という事です。

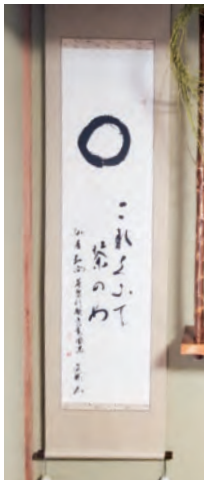
昨年は前述の通り、あまり良くない意味で記憶に残る年となってしまいました。コロナ禍のことを「天災」とも「人災」とも人によって言いようはあるようです。また、世界情勢を見ても、決して平和であると断言できる状況でもない様に思えます。

この偈文の意味する内容は、正に多くの人が祈ってやまないことであり、だからこそ、お勤めの中で是非自分の声にだしてお唱えしたい偈文です。

新年を迎え、ご家庭のお仏壇の前でぜひこの「祝聖文（しゅくしょうもん）」をお唱えしてみてください。

仙厓和尚のユーモアと その心底にある真実の世界

数年前の秋、丸の内の出光美術館で仙厓和尚（1750 ～ 1837）の書画を見ました。仙厓和尚は、江戸時代後期の禅僧で、多くの書画を残しています。その作風は、一見すると子供の落書きのようでありながら、飾り気のない禅師のまっすぐな心がうかがえて、実に洒脱で見る者を魅了してやみません。この展覧会では、愛用の品々も含めおよそ 90 点の出品がありましたが、中でも印象深かった 3 点を紹介し、味わってみたいと思います。



まず一点目は、大きな「○」が書かれてあり、その脇には「これくふて茶のめ」とあります。一般的に、この大きな「○」は一円相と呼ばれ、禅宗の僧侶がよくこのように染筆します。大抵、この「○」は言葉では言い表すことのできない悟りの境地を示すのだと説明されますが、仙厓和尚はなんとこの「○」をおまんじゅう（菓子）に見立て、“これを食べてお茶でも飲みましょう”とおっしゃるのです。まるで、難しい講釈をならべて偉そうにする者を笑い飛ばす仙厓和尚のお顔が目に浮かぶようです。ユーモアの中に、鋭い求道のまなざしを感じます。では、仙厓和尚にとって“悟りを求める”とはどのようなことなのでしょうか。

次の作品は、どっしりと座る蛙が描かれています。その周りに「坐禅して人が仏になるならば」と書かれています。姿・形だけを見れば、蛙は静かに座り、あたかも神妙に坐禅を組んでいるかのようです。外見のみを言うなら、とっくに蛙は仏の境地に達しているではないかという仙厓和尚のおもしろいお諭です。外見はいかにも坐禅を勤しんでいるようでも、内心に悟りを求め真実の道を歩もうとする精神がなければ、形だけ座っていても決して仏の境地には達しないというお示しです。これはなにも、禅に関することだけでないと思います。お念仏者の私たちにとっても、貴重な教えとして受け取ることができます。“どうか阿弥陀さま、いたらない私をお救いください”という信心がないのに、口先だけでナムアミダブツと称えることは、いわば仙厓和尚の描いた蛙と同じになってしまいます。外見は賢者や善人らしく念仏に励んでいても、内心に阿弥陀さまをお慕いし浄土に往くことを切実に願っていなければ、それは真の念仏者ではないのです。心と行い・内と外の一致が大切であると、この蛙の画は教えてくれています。

最後は、仙厓和尚が最晩年の 88 歳の時に残した牡丹の絵です。満開に咲いた牡丹と蕾の牡丹の二輪の上には、「植えてみよ　花の育たぬ里もなし」と書かれてあります。“どうせなにをしたってダメだ”と粗野な生き方をするより、自ら花の種を植えて育てていくような丁寧な生き方をすれば、決して誰しも芽が出ない環境などはないという応援歌に聞こえます。仙厓和尚のすてきな作品にエールを頂戴した展覧会でした。

〈文：立花　俊輔〉

ブラジルのおはなし③

ブラジルでのお葬儀・法事は？？

佐古（さこ）　康祥（こうしょう）

前回までブラジルと仏教について書かせていただきましたが、そのブラジルのお寺での私の活動は、日本のお寺と同じようにご葬儀、ご法事、寺内の清掃などがあります。こういった日常の活動の中でも日本と違う点が多々あります。例えばブラジルでは亡くなってから24時間以内に埋葬しなければいけないと法律で決められています。そして、仲介に立ってくれる葬儀会社もいません。つまりご家族から直接お寺に連絡が来ると、位牌塔婆を用意して、お墓の近くにある建物の中にある壁だけで区切られただけの遺体安置スペースに僧侶自らで葬儀の祭壇を用意し、家族と打ち合わせして進めていきます。日本だと考えられないですが、向こうの人の気質もあり「あと3時間で埋葬しなければいけないから急いできて！」と言われることも……。

そしてご法事は日本と比べて圧倒的に集まる人数が多いのが特徴だと思います、例えば3回忌7回忌などの年忌法要で50人くらい集まることは珍しくありません。これは移住する時に親戚と離れて移住して来た人たちは同じ船の人、同じ地区に移住した人を親戚のように接してきたからであろうと思われます。特に顕著なのは沖縄出身の日系の方々です、四十九日法要でさえお寺の本堂を埋め尽くす200人以上の参列者が来ることもあります。

またブラジルは日本の約22倍の面積を持つ国で、私の暮らしていたサンパウロ州だけでも日本の本州と同じ大きさがあり、お盆のお参りも月をまたいで数か月かけて行います。一軒のお参りを行うために数時間の距離を車で行き、その街に泊まり、またさらにそこから奥の街にお参りに行く、こうして遠方のお盆参りに行く僧侶は数日お寺に帰ってこないこともあります。また、ほかのお寺の手伝いにサンパウロから6時間ほどかけて行っても、到着後電話で葬儀が入ったからとすぐにサンパウロに戻るといったこともありました。

しかし、このように海外での活動で私共は「日本でご先祖様が行っていた供養と同じ方法」で仏事をするということを大切にしていたのを、それももちろん大切にしなければいけないのですが、現地の日系ではない方々に伝えていくということも大切だと思っています。また、現在は日本の文化を通じて仏教を伝えるためにも書道を教えていたり音楽や武道といった様々な活動に場所を提供しています。そしてクリチバという町にあるお寺では今は借家でやっているので、お寺の建物を新しく建てようとしています。このように浄土宗は60年以上南米で活動をしていますが、今も現地の開教使は活動を広げています。もしご興味がございましたらお会いした時に直接お話しいたしましょう。今回で3回にわたる連載も終了です、ありがとうございました。

《清璋寺だより》

明けましておめでとうございます。

恒例の“修正会並びに新春大祈願法要”ですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大対策として、住職のみで１月１日の明け方におこないました。餅つきも無く例年のにぎやかな声も聞けず残念でしたが、一日も早く穏やかに日常が過ごせますようにと願うところです。

どうぞ、本年も宜しくお願いします。

2021 年清璋寺法要予定
3 月 21 日（日）13 時：春彼岸法要
8 月　8 日（日）13 時：お盆の法要
9 月 26 日（日）13 時：秋彼岸法要

《納骨堂のご案内》

クラシカルなものから現代調など様々なタイプの納骨壇を用意しております。段々と残り少なくなってきていますので、ご希望の方は是非ご見学にお越しください。

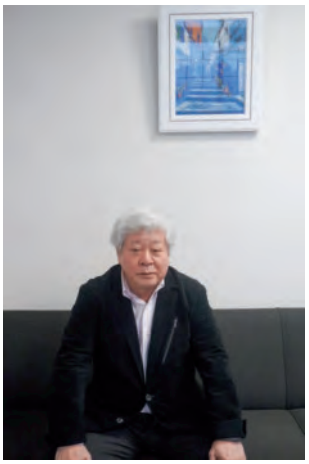
札幌市手稲区西宮の沢５条１丁目 19-35　清璋寺

TEL 011-668-5110

—お檀家タウンページ ～ともいき訪問⑳—

アトリエ本間建築工房

北海道の寺院建築のパイオニア

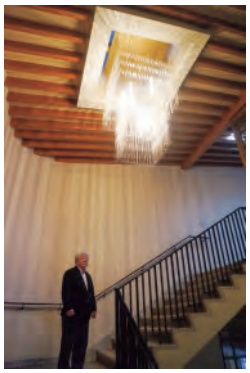


今回は長く設計・監理の面でお世話になっています本間博さんにお話を伺いました。

出身は島牧村で、昭和30年代当時、冬は陸の孤島状態だったそうです。

大学卒業後、吉田三郎平さんが開業した吉田建築設計事務所に入り、昭和50年頃、新善光寺の担当になり納骨堂・書院、平成に入り宝塔（合葬墓）・山門（主に辻塀）、そしてここ数年は外側の大規模改修とずっとお世話になっております。

「書院は当時としては予算金額も大きく、使っている材料から何から一線級のものを使いました。前住職と多くの東京の寺院の視察も繰り返し、そこでここが良い・悪いなどの会話をして思い描いているイメージを掴んでいきました。今までの寺院とは違う近代的なモダンな空間を目指し、その頃に独学で勉強もし、そこから寺院建築の世界に入りこんでいきました。」と当時を振り返っていただきました。



寺院では珍しいシャンデリア

こだわりの一例をあげると正面玄関から入ってすぐのシャンデリア付きの階段で天井の四角いかんじが天蓋（※てんがい）につながっています。

そして独立して自分の事務所をかまえて、南3条西2丁目の善光堂のホテル（現・ホテルリーネル）の設計がきっかけで、そこから善光堂のバックアップで依頼が沢山来るようになり、稚内・根室・美唄・砂川など全道各地の各宗派の寺院を設計されたそうです。

他、浄土宗で設計している寺院は、菩提寺（北区）、大松寺（南区）、善道寺（豊平区）、清璋寺（手稲区）で、どれもそれぞれ特徴があります。

「お寺はスケールからして非日常です。中に入ってお参りして、心が鎮まり穏やかになるような空間の設計・建築を心がけています。」と思いも語っていただきました。

本家は曹洞宗でしたが、このような縁で新善光寺の檀家になり、お盆やお彼岸法要の受付の手伝いもしてもらっています。

是非、新善光寺にお参りに来られた際は、こだわりの寺院建築に触れていただければと思います。

※仏像や住職が座っている上にかざす笠状の装飾具のこと

山門落慶時のお練り行列（平成6年）
左から2番目が本人

有限会社　アトリエ本間建築工房
〒064-0821　札幌市中央区北1条西20丁目2-16-803号
TEL：011-613-8372

しろいし幼稚園から

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスの出現によって当たり前と思っていた事が当たり前ではないと、しみじみと実感する１年となりました。幼稚園でも、子どもたちの日々の姿には変わりがありませんが、様々な行事が中止、延期、内容変更の措置をとらざるを得ない状況となり、このような状況の中で子どもたちの育ちを担保しながら、保育（教育）を続けていく事の難しさを日々感じています。

12 月 8 日は成道会（お釈迦様がお悟りを開かれた日）ですが、例年全園児がホールに集まってお祝いをするところを、今年は年長児だけが集まりました。年少・年中児はクラスでお祝いを行いましたが、小集団で行った事により年齢の低い子どもたちにもこの行事の意味が伝わりやすかったという利点もありました。子どもたちには、“お悟り”の意味を理解する事はとても難しく、本園では「ののさまのお約束をお釈迦様が考えた日」と伝えています。自分たちが、日頃から唱えているお約束の意味を考えるきっかけにもなったようです。

このように、新型コロナウイルスの出現によって、制限される事はありますがこの機会に行事の意味やねらいを改めて考えるチャンスだとも実感しています。そして、そのような事を繰り返す中で、日々の保育の中で行事は子どもの育ちを支える手段でしかなく、どのように工夫をすればその育ちを保障できるのかと考える事の方が重要だと気付かせて頂きました。

とは言え、このような状況は小さな子どもたちの生活にも影響を及ぼしている事は事実です。ワクチンの接種等、このコロナウイルスに対する対策がしっかりと整備され、すこしでも安心・安全な環境の中で、子どもたちが生活できる状況になる事を心から願っています。

ののさまのお約束

- いきものをかわいがりましょう
- おともだちとなかよくしましょう
- おどうぐをたいせつにしましょう
- よいことはすすんでしましょう
- わるいことはすぐやめましょう

学校法人新善光寺学園　しろいし幼稚園
〒 003-0028　札幌市白石区平和通 1 丁目南 6 番 16 号　URL siroisi-pippara.ed.jp
TEL 011-861-4426　FAX 011-866-0707　E-mail siroisi.-pippara@cyber.ocn.ne.jp

慈啓会から

慈啓会養護老人ホーム

当施設は大正 14 年（1925 年）、藻岩山の麓に札幌養老院として開設以来 95 年余が経ち、昭和 60 年（1985 年）に現養護老人ホームとして建築後も 35 年が経過、途中大規模修繕を経て、現在に至ります。

現在の建物は、鉄筋コンクリート造り 4 階建て、定員 80 名の全室個室の施設です。入所基準は、原則 65 歳以上、家族や住宅の状況などから在宅生活が困難な方や、低所得世帯の方が市町村長の措置により入所でき、退所についても行政が決定します。また、平成 18 年度（2006 年度）からは、入所中に介護が必要な状態となった時は、介護保険の在宅サービスが利用可能となりました。

昨年は、新年度を迎えた当初から新型コロナウイルス感染対策に追われ、入所者の皆様は様々な規制の中での生活となり、楽しむために企画した行事も密の防止に配慮しながらの開催となりました。

今回は、感染対策の上、年末年始に実施した行事の模様を掲載しましたのでお楽しみいただければと思います。

一日も早いコロナ終息を祈っております。

〈慈啓会養護老人ホーム〉
札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-52　TEL011-561-8296

慈啓会総合相談室のご案内
介護についてご心配やお困りのことがあればお気軽にご相談ください。
専門スタッフがご相談に応じます。（相談無料）

フリーダイヤル **0120-83-8291**
受付時間：8：45 ～ 17：00（土日祝は除く）
E メール：info-jk@sapporojikeikai.or.jo

当山のお仏像を紹介します②

ご本尊脇侍　観音菩薩さま

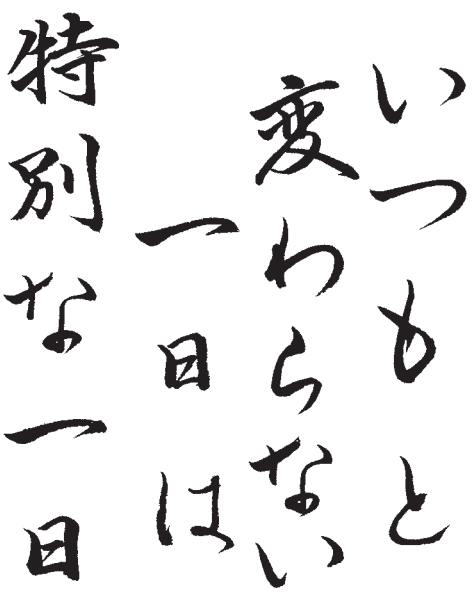
本堂の中央にご本尊阿弥陀如来さまがおられます。その向かって右側に、今回紹介する観音菩薩さまがおいでです。観音菩薩さまは、観世音菩薩さまともお呼びします。世の中の音を観るという意味のお名前です。音を観るとは、なにか不思議な表現ですが、単に音を聞くだけではなく、この世に生きる私たちのお念仏の声を聞いてくださり、さらに観守ってくださるお方が観音菩薩さまなのです。大きな耳がそれを表しているかのようです。

また、手には蓮台をお持ちです。私たちお念仏者が、この世の命を終えて阿弥陀さまの御国であるお浄土に参らせていただく時に、この蓮台に乗せていただきやすらぎの世界であるお浄土に往くことができるのです。観音菩薩さまの持つ蓮台にいだかれて、私たち念仏申す者は安心して最期に臨むことができるでしょう。

～いつもと変わらない一日は　特別な一日～

同封の年回忌表の上に書かれている言葉について解説します。
法然上人（1133～1212）のお言葉に

「明日の大事をかかじと、今日はげむがごとくすべし」



とあります。私たちお念仏者にとって“大事”とは、我がいのちの終わる時、阿弥陀さまのお迎えを頂き、お浄土に往き生まれることです。その時がいつか私たちは知るよしもありません。明日がその特別な一日になることだってあるのです。私がお浄土に往く大切な日をのがさないように、今日のお念仏に励むことがお念仏者の生き方です。死は、お念仏者にとって、忌み嫌ったり悲しいだけの出来事ではありません。死を通して、生が今までにない輝きを見せ、味わい深い一生となるのがお念仏の御利益であると拝します。

北縁　なんでもＱ＆Ａ

いつも質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。
毎号投稿くださる方もいらっしゃって、本報の編集にも反映させていただくべくしっかり読ませていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いします。

Q 今年母を亡くしたのですが、形見分けについて、いつ行えばいいのかなど教えてください。また、故人のものを捨てる場合、どのように処分してよいか教えて下さい。

A 故人の衣服や所持品などを処分したり、親族や縁の深い方に渡すことなどを「遺品整理」「形見分け」といいます。財産などの遺産に関しては、相続についてのことが法的に定められているので、ここでは相続に当たらないようなものを前提としてお話いたします。

まず時期的なことですが、仏教徒は亡くなられて数え 49 日間（中陰）を忌中としますので、忌明け前での形見分けは基本的にはいたしません。しかし、忌明け後すぐに行わなくてはならないということでもありませんので、遺族の心の整理がついてから行うとよいでしょう。

次に形見分けをする範疇ですが、親族や故人の縁者（特に縁が深い方）にお渡しするのが一般的です。全く面識のない人に渡して、トラブルに巻き込まれたという話もあるので、なるべく親族や知縁で行うことをおすすめします。

衣類は渡すときにはクリーニングしてお渡しするのがマナーです。また、サイズなどを直してお渡しすることもあります。

遺品整理や形見分けは、亡くなった方のものをただ捨てたり、あげたりという事ではなく、大切に整理することによって遺族の気持ちを前向きなものにするという意義があります。仏教ではものに執着するということはいけない事としています。故人の遺品が身近にあるとそれに執着してしまう恐れもあることから、こういったことを行うことが必要な時もあるでしょう。遺品整理は、遺品を形のないものに変えて自らの心にしまう、といった思いで行うのがよいでしょう。

故人の想いが詰まっているような大切な遺品を処分する場合、「お焚き上げ」という方法をとります。お寺で受付けることができるものもありますが、無理であれば業者をご紹介することも可能ですので、お悩みの方はご相談ください。

Q 今年親族が他界しました。年始の行事などは控えた方かよろしいでしょうか。

A 故人の冥福を祈り、祝い事などを控える期間を忌中・喪中と言います。忌中は宗教的観点から定めた期間で、喪中は慣習的な観点での期間と言えます。**仏教で忌中は 49 日間と定めがあります。**対して喪中ですが、これは明治以前には法で定められていましたが、現在は慣例的に一年とされています。代表的な喪中の習慣といえば、年末に喪中のお知らせをするハガキを送り、年明けの年賀状は送らない、つまり年始の挨拶は慶事のため控えるという習慣です。その他年始の寺社への参拝ですが、仏教は死をケガレとみなさないため、仏さまへ新年のあいさつをするのは結構だと思います（神道は死をケガレととらえるため、忌中であれば参拝は控えます）。新年会などの行事は、喪中期間として控えるというのが慣例的な考えです。

喪中は慣習であるためか、現在では一年といった期間にとらわれない形で過ごしている家庭が多いようです。

〈行事報告“除夜の鐘”〉

年末に北海道新聞・朝日新聞や STV「どさんこワイド」で除夜の鐘について報道がありました。例年とは違い、鐘は僧侶のみで撞き、その様子を YouTube でライブ配信しました。

音声に不具合がありましたが、多くの皆様にご視聴いただきありがとうございました。

の鐘 悩む寺院

僧侶つく様子 動画配信

一般参加へ 密対策徹底

東京別院　霊源寺から

昨年 12 月に神奈川県在住の新善光寺お檀家様のお葬儀を霊源寺本堂でとりおこないました。

2 年前に本堂を改修してキレイになり、桐ケ谷火葬場の真向かいという非常に便利な立地ということもあり、心安らかにお葬儀をおこなえると思います。

また法事などにもお使いいただけますので、どうぞお気軽にお問い合せください。

大光山 霊源寺　受付時間 9:00〜19:00　毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅　徒歩7分（桐ヶ谷斎場真向かい）

〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2　FAX:03-3494-6319

TEL:03-3494-1083　大光山霊源寺　検索

編集後記

あけましておめでとうございます。どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。なんとか 1 月中の発行にこぎ着け一安心です。

今回「お檀家タウンページ」は設計士の本間博さんにインタビューをして記事を書きました。本堂完成後の新善光寺の発展に非常に力を発揮した氏のお話は非常にありがたいものでありました。紙面の都合上、載せきれないエピソードもあり、また別の形で紹介できればと思います。

ご感想お待ちしております！　（真海）

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺　検索

新善光寺寺報 Hokuen 45

北縁

発行／ 2021 年 1 月発行

発行責任者／新善光寺住職　太田眞琴

〒 064-0806 札幌市中央区南 6 条西 1 丁目　［TEL］011-511-0262　［FAX］011-511-4706

［ホームページ］http://s-zenkoj.com　［Eメール］s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp